

第6回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「第1回～第5回勉強会の振り返りと
出されたアイデアの整理」

2023年1月20日 19:00 - 20:30

まもなく始まります。

(古川恵太)

- みんなで討議
これからの東京湾でしたいこと
- 意見交換
- おわりに



Youtube
東京湾再生
ハゼ博士



Webサイト
coastcard.jp

江戸前勉強会2022



はじまりました！

共催(予定を含む):

東京湾再生官民連携フォーラム(モニタリングPT、窓PT、江戸前PT、生き物の生息場づくりPT他)

東京湾の環境をよくするために行動する会、

東京海洋大学江戸前ESD協議会、

東邦大学東京湾生態系研究センター、

ベルmontフォーラムCOAST Cardプロジェクト

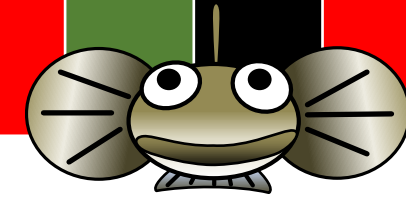
協力:

東京湾再生推進会議モニタリング分科会

ご参加のみなさまへ

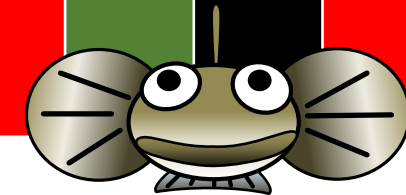
- Zoomでの開催に並行して、YouTubeでの公開をいたします
- 勉強会の内容を録画し、後日公開させていただきます
- ご発表、ご発言については、個人の立場でお願いします(所属機関の見解といたしません)
- 本勉強会の成果を他で引用する場合には、発表者が特定されない形としてください(チャタムハウス・ルール)
- 楽しく、未来の東京湾のために議論いたしましょう
- 発言の時以外はミュートでお願いします。

第6回



江戸前勉強会2022

- **はじめに**
「第1回～第5回勉強会の振り返りと
出されたアイデアの整理」
(古川恵太)
- **みんなで討議**
これからの東京湾でしたいこと
- **意見交換**
- **おわりに**



勉強会のねらい

- 目標

めざすべき東京湾の姿を描こう

ヘドロのない海を目指そう

海辺へのアクセスを確保しよう

第1回：計画
第4回：アクセス

行動の具体化

(ワークホルダー)のネット

第2回：モニタリング
第3回：生息場づくり

生物データの一元化・
体系的な取得をしよう

生き物一斉調査・シンポの実施
(うなぎ調査)

第5回：環境評価
第6回：これから

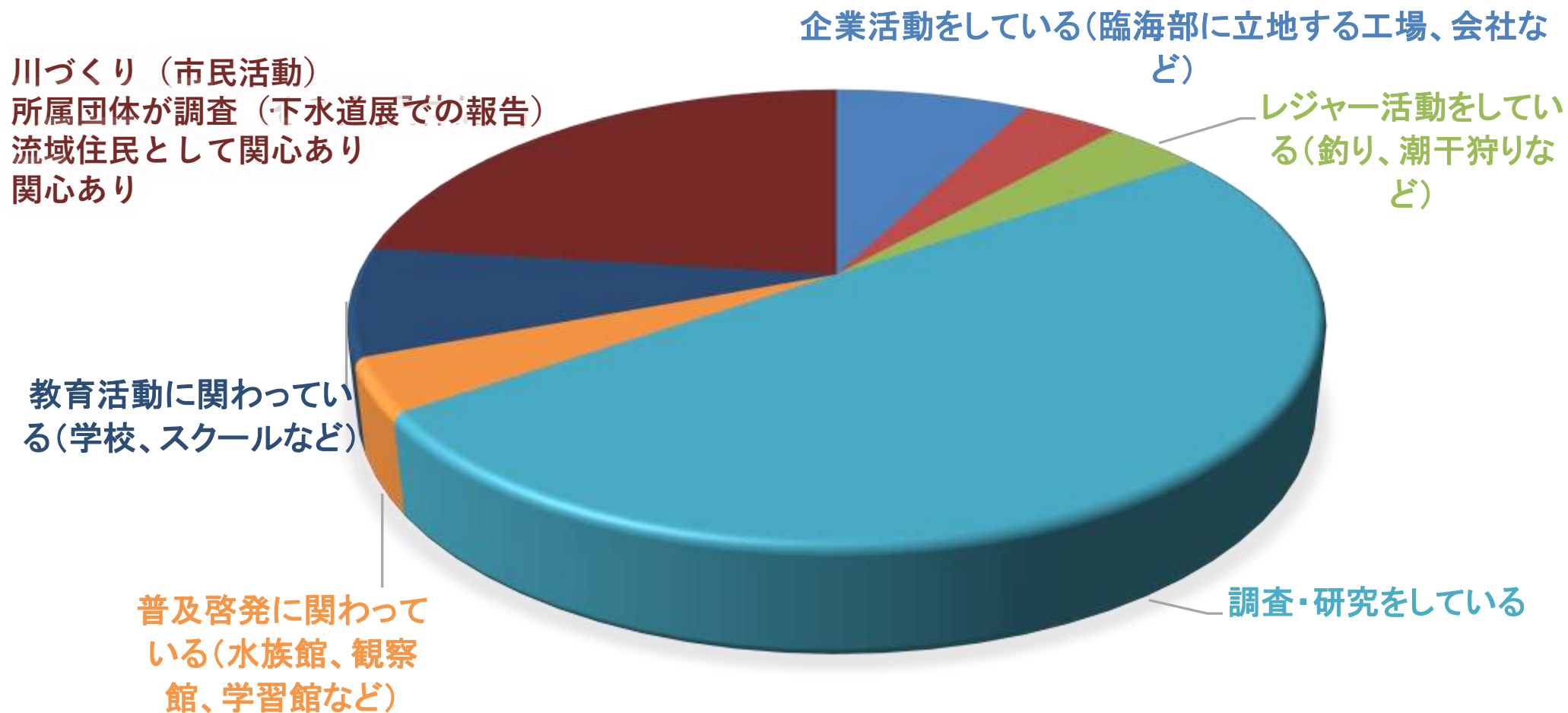
新たな課題に対する対話の場をつくろう

「海のイドバタ会議」を実施しよう

継続的に話していこう

参加者について（2023.1.19現在／事前アンケート分）

ご自身と東京湾の関連性について教えてください（複数回答可）



各回の参加者

・ご参加のみなさまのご所属

第1回



第2回

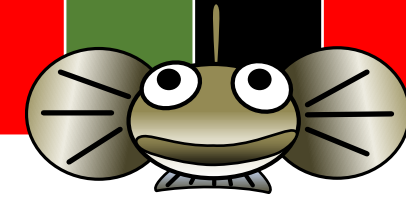


第3回



第5回





第1回江戸前勉強会2022(11/11)

- 東京湾再生のための行動計画(第3期)の骨子:多様な主体の協力、官民連携
- 意見交換:連携の仕組み・工夫、まちづくりとの連携、評価の視点

(案) 資料2
東京湾再生のための行動計画(第三期) (仮称) 骨子
令和4年7月
東京湾再生推進会議幹事会

目標
快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す。
～ 流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出 ～

豊かな水環境の実現 楽しく、親しみやすい東京湾の創出 活動の環(わ)の拡大

計画のポイント

- ブルーカーボン生態系の利活用等による「江戸前」の恵みの再生
- 多様な官民連携の推進と、流域3,000万人がつながる交流機会の創出
- 第二期計画からの取組についても継続的に推進

官民連携

- 「東京湾の日」や「東京湾大感謝祭」等を通じて連携イベントを開催
- 自然共生サイト(仮称)認定を通じた民間取組等による生物多様性保全の促進
- 東京湾再生官民連携フォーラム等との更なる連携の推進。等

どんな東京湾にしたいですか？

リラックスできる海辺
多くの人との心の距離が近い東京湾
透明度の増大=土砂濁りと赤潮の軽減
千葉側のような砂浜・浅場・藻場が豊富
港湾域でも多くのアクセスし易い
つながる 貧酸素水塊のない海
適度な綺麗さの 触れる海
生きものや癒される風景と出会える身近な海
感じられる海 憩い 潮干狩りできる
気楽に楽しめる 陸の環境との調和
かつてのように底生魚介類が豊富
周辺住民が状態を知り・意識出来る
かつてのように漁獲が上がる
多くの人に知ってもらえる東京湾
生き物が沢山みられる海

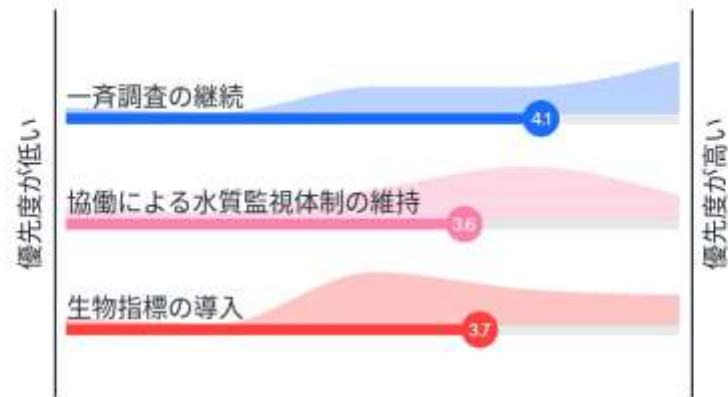
市民が楽しめる豊かな海
気軽に海辺に行ける
生き物がたくさんいる
きれいな海
多様な
行きたくなる
さかなが豊かな東京湾
味わう
楽しむ
海
きれいで豊かな海

第1回 意見交換 (3/8) 施策の優先度

骨子で示された施策の優先度を教えてください (陸域対策)

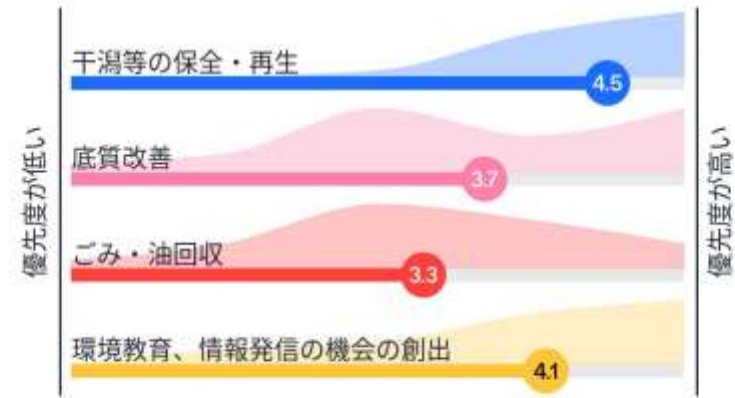


骨子で示された施策の優先度を教えてください (モニタリング)



Mentimeter

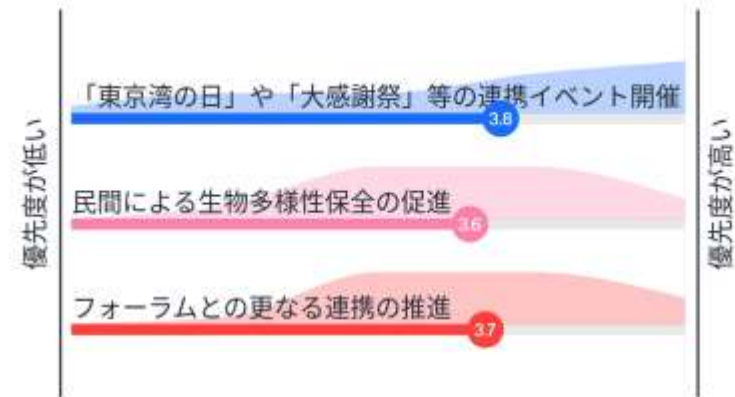
骨子で示された施策の優先度を教えてください (海域対策)



Mentimeter

Mentimeter

骨子で示された施策の優先度を教えてください (官民連携)



Mentimeter

第1回 意見交換 (7/8) 自由意見その1

ご意見をどうぞ



連携の仕組み・工夫

東京湾再生推進会議に必要ではないでしょうか？

まちづくりと共通の関心

若者の参加

東京湾再生官民連携フォーラムと再生会議（官・行政側）との連携の具体的な仕組みを見直す必要があると思っています

東京湾のいろんな活動や魅力や東京湾自体が私たちにもたらしてくれる恵みを知ってもらうための工夫が必要です

負荷削減と豊かさ

いですね。

磯焼け

事だと思いました

生物指標

栄養塩の足りないところ、余っているところ、解消出来たらいいのに。それと底生生物が居なくならないようにしたいです。

入れない場所(海)が、コロナ禍以後極端に増えた。子供にアピールしたい、そうすれば親もついてくるから。潮焼けの磯をなんとかしたい。

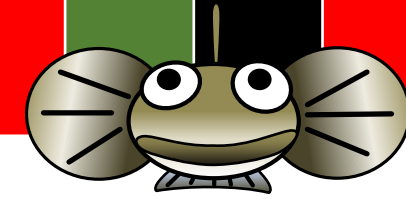
評価の視点・仕方

民が交流することができる大切な役割を果たしているのだなと思いました。東京湾大感謝祭が10年開催されたとのことで、来年以降は形を変えてでの開催と伺っているのですがどのような形になるのか非常に気になります。

学生の方の参加がもっと増えると新しい視点の意見が聞けて、楽しくなると思いました。

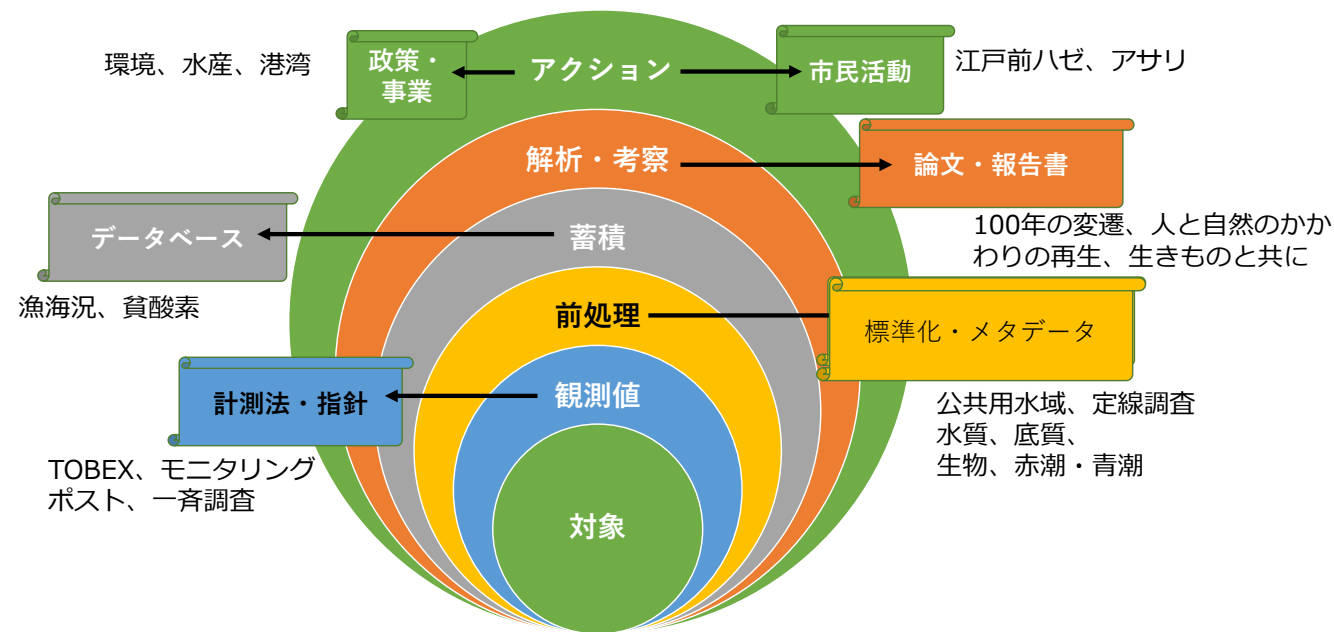
100人一杯になるかと思ってました。いつも一定の人出なく色々な人に興味を持ってもらいたいと思います。

若者の参加が必要ですね！



第2回江戸前勉強会2022(11/25)

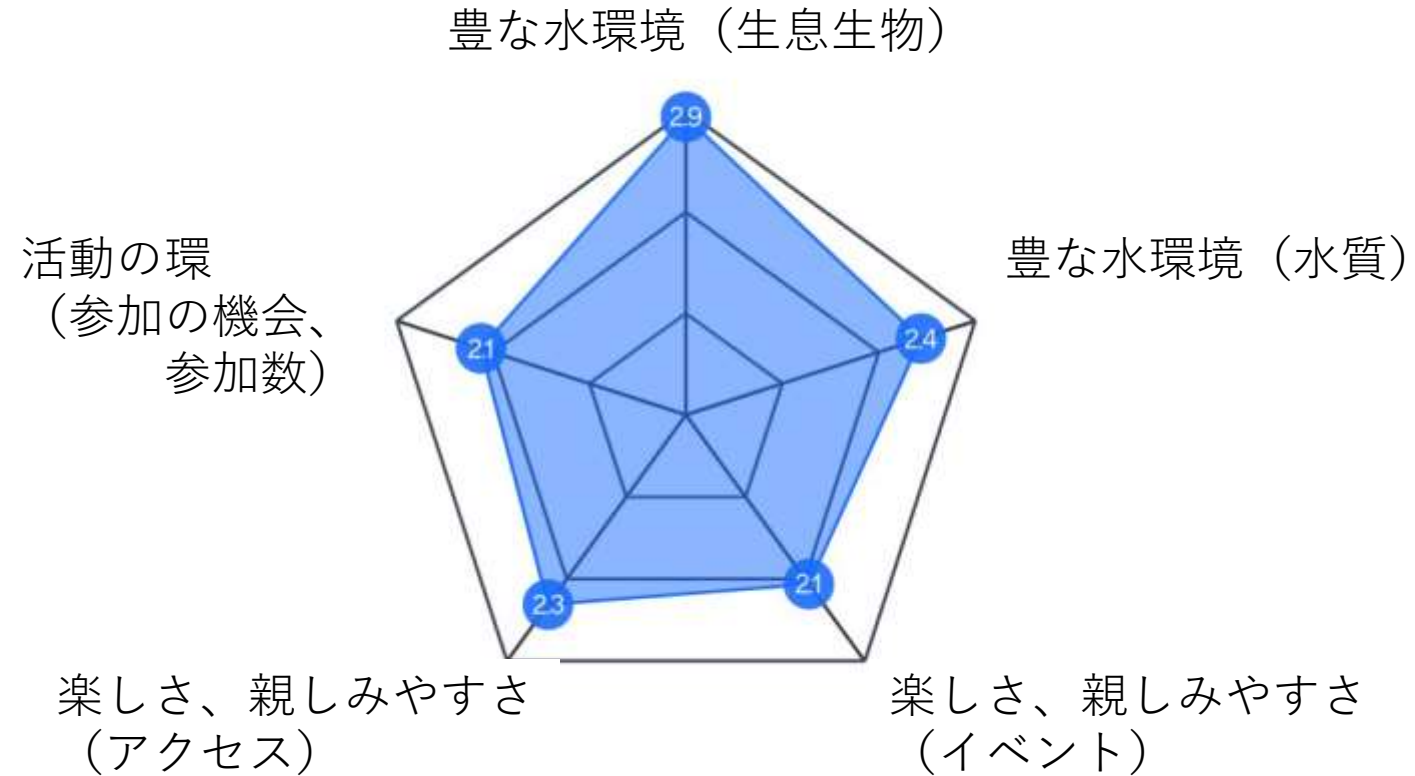
- 東京湾の環境モニタリング: 多様なモニタリング、アクションへのつながり
- フラクトンから見た環境: 過去の赤潮フラクトンの出現、昔への回帰?
- 意見交換: 漁獲、魚・生物のモニタリング、沿岸・河口での調査、ごみ、海色、DB



プランクトンから見た現在の東京湾
→ 昔に戻りつつある! ?
(断定はできないですが,)

第2回 意見交換

- 重要なモニタリング項目



第2回 意見交換

- 増やすとしたら、どんなモニタリング項目？

より高頻度での各種モニタリング

東京湾に関わる施設の利用者

釣り船（遊漁船）の漁獲量

海ゴミの種類 物理環境（流況）

連続観測 海の色 釣り

動植物プランクトン 東京湾の魚種

一般向けに、海に興味を持つ理由

ある種の生物モニタリング

出水時の栄養塩等の負荷量

埋蔵性

市民によるプランクトン・水質に注目した調査

より沿岸近くや河口のごく近くでの水質調査

東京湾に触れられる施設の来客層

漁獲高（生産力の指標）

漁獲努力と漁獲位置

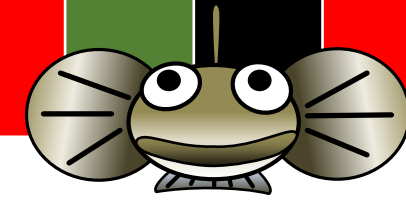
第2回 意見交換

- ・モニタリングの活用について

一般の人、特に拡散能力の高い学生をターゲットにしたTikTokなどのSNSを利用したコンテンツ（都市伝説的な）を提供する

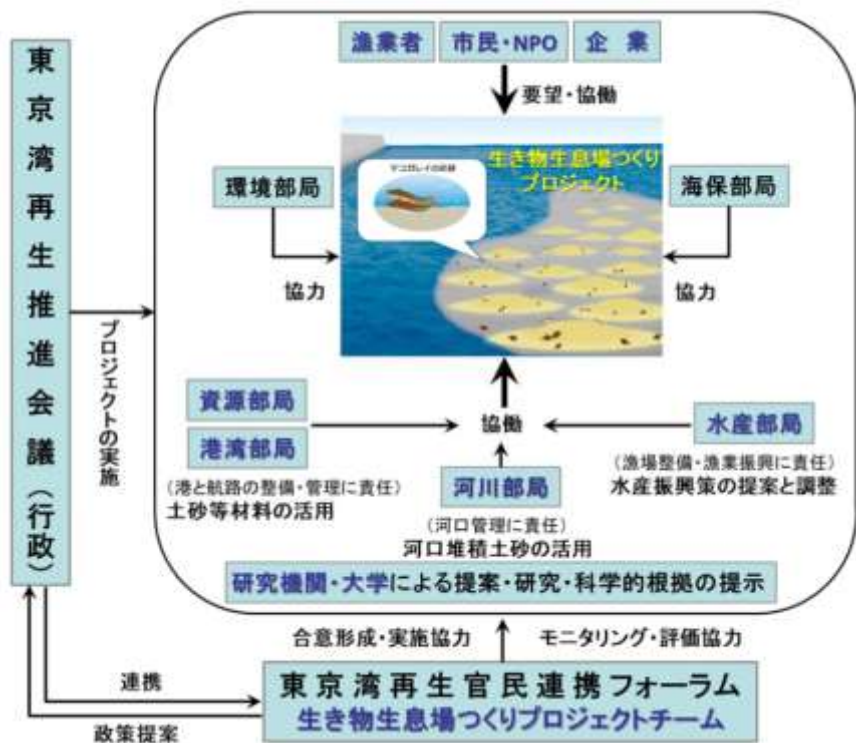
釣り雑誌や、アウトドア雑誌、学習雑誌などに成果を発信する（そうした事例が無いわけではないが、少ない気がします）

近年赤潮に関する報道が増えていること、また富栄養化との関係などについても学校である程度教えられていることから、一般市民にそのまま現状を共有しても一定数の人には理解して環境政策・ボランティアなどに関心を持ってもらえる気がしている。その際、現状でもデータベースはよく整理されているように思うので、まずはデータベースにどこからアクセスできるのかを横断的にまとめたフォームやパンフがあってもいい気がする。



第3回江戸前勉強会2022(12/9)

- 生き物生息場づくり: 基本的な考え方と進め方(長期的、合意形成、変化の監視)
- 水産・漁業の視点: 漁業生産の変化と環境を見る視点(貧酸素の意味)
- 生物モニタリングについて: ベントスとネクトンの生物種確認調査(イベント化)



魚種交代～生態系の中で

魚の種類の変化 (エサの違い)

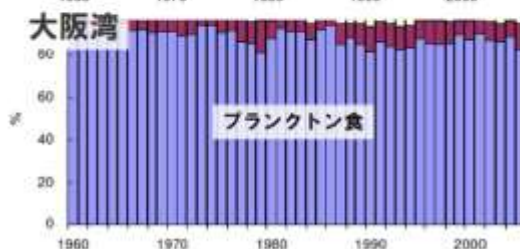
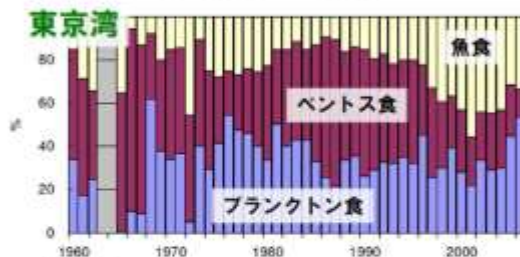


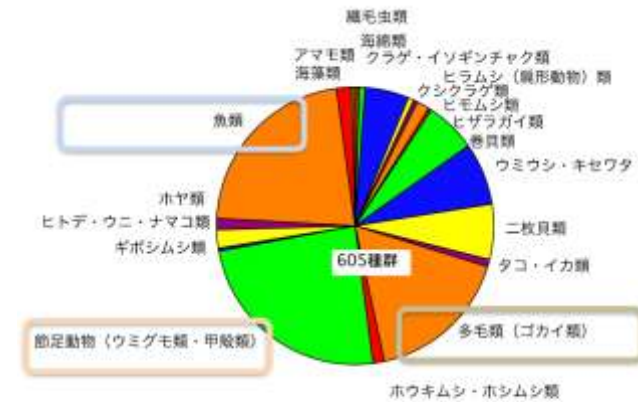
図. 東京湾(上段); 大阪湾(下段)における食性別の漁獲割合の推移。
マイワシを除いた魚類のみ。貝類・水産動物を含まない。

タチウオ
= 魚食



※ シャコはベントス
※ プランクトン食
= イワシなど

東京湾の漁業



605種群 (暫定)

とりあえずできること
イベント化

- 身近な生物調査
江戸っ子生物: マハゼ、アサリ、
ウナギ

第3回 意見交換

- 東京湾にいてほしい生き物

さかな色々 江戸前と言われている

コメツキガニ (かわいいので)

鮭 (放流なんてしてみたら?)

海とともに暮らす人

タラバガニ

海藻

アサリ

ウナギ

イシガレイ

シオフキガイ

ハマグリ

アマモ

シヤ

コ

アナゴ

アオギス

マナマコ

マコガレイ

二枚貝

旨い魚

トリガイ

海草

砂質に生息する二枚貝

アサリなど外来生物

マアジ (美味しいので)

コノシロ

植物他多様な

マハゼ

マメコブシガニ (かわいいので)

ウモレベンケイガニ (見てみたいので)

第3回 意見交換

・ 生息場づくりについて

浅場、干潟

運河の利用

行政と市民
いかに連携

国交相の生
く、生物を
漁師が容易
環境は違う
検討するの

利用されず、将来的にも需要の見込めない老朽化した埋立地の護岸部分の緩傾斜化、流域河川上流の砂防ダム等から取り除いた川砂による養浜・干潟造成

- 対象：浅場、干潟、ビーチ、アマモ場、マウンド造成
- 場所：運河や（テトラのある）海岸線、老朽化した護岸の活用や元航路の埋戻し
- 工夫：漁業者による維持管理、企業の参画、浚渫土砂の利用
- そのために：データ収集、他の湾の事例との比較検討

湾の端のほう

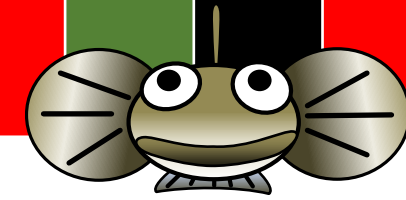
。

での人為によ
は次世代のた

「京湾の姿を描
「探し」の視点
いて、様々な事
そして、改善
ることから、

「酸素水塊の
E場ができた
コアモをい

使わなさそうな運河の干潟化



第4回江戸前勉強会2022(12/23)

- ・ 東京湾へのアクセス:窓施設、窓PTの活動、東京湾の日、ベイプラン
- ・ グループワーク:生物調査、観察会、コンテスト、イベント、懇談会...

ラムサール条約から学ぶ



干潟の生きもの調査

保全・再生

環境省・国立環境研究所
鳥獣保護区保全事業



ゴミひろい

ワイズユース

地域住民・学校・企業



昔の貝とり

対話・
教育・能力養成・
参加・普及啓発
(CEPA)

谷津干潟自然観察センター
・習志野市

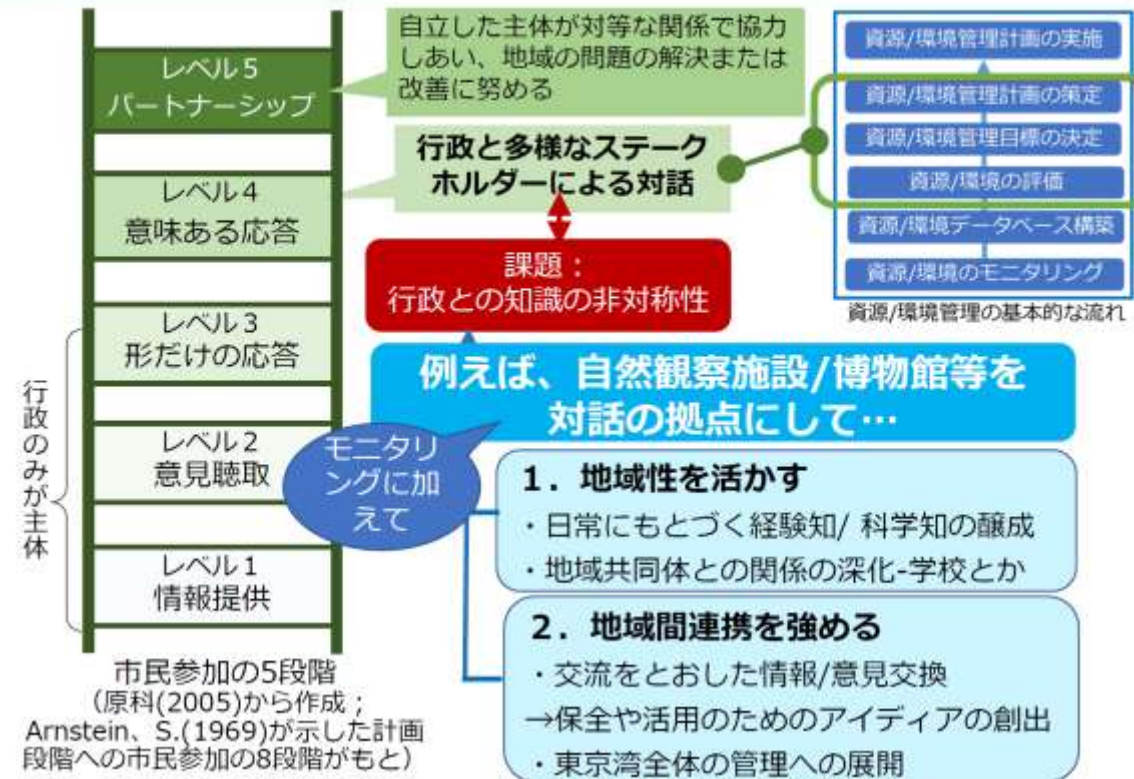


他の湿地との交流



バードウォッチング

Q 管理の意思決定に参加するには…?



第4回 グループに分かれてお話ししましょう

- 第3期行動計画に向けた「これからの連携」
- 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？
 - だが、どこで、どのように
 - 地域の特性（ローカル性）
 - 日常性
 - 生物観察会
 - 東京湾の日
 - 大感謝祭

第3期行動計画に向けた「東京湾の日」をどの

連携

第1班

再生会議が、東京湾の日のウェブサイトで東京湾の保全のためのテーマを各回提示し（例えば、プラごみから東京湾を守ろうなど）、テーマに関連するポスターチラシ、教材などをダウンロードで

10月1日（トーキョーワンの日）にみんなで一斉に！

東京湾の日に合わせて東京湾の窓施設でゴミ拾いイベントを一斉に開催する

だわがっ

どこでっ

自分

小学校、学校を巻込んで

商店を巻込んで

- 誰が：小学校・中学校、市民、商店街、文科省、自治体、教育委員会
- 場所：小櫃川河口、海浜k農園、窓施設、学校、海が見えない街中
- なにを：モニタリング調査、観察会、ごみ拾い、ハゼ釣り、潮干狩り、潮干狩り (WiseUse)
- 工夫：情報の提示、東京湾の日にイベント

みんなを巻きつけてハゼ釣りする

潮干狩りで親子で遊ぶ

環境保全型の潮干狩り (ワイズユース)

くり。

第3期行動計画に向けた「これからの連携」
「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

- 誰が：色々な施設（窓施設）、NPO・行政
が一般の人と、漁師さん
- 場所：それぞれの施設
- なにを：展示、一斉に同じことをする、懇
談会
- 工夫：講演や干潟、現場をつないで

業者さん、
行政、他の
人たち

東京湾のあちこ
ちの現場で
(zoomでもつな
ぐ)

窓
会

省「身
近な水環境の全国一斉
調査」&多摩川で市民
と行政で組織「多摩川
流域懇談会」事務局

ヒント1：地域の特性（ローカル性）や日常性に着目して
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

第3期行動計画に向けた「これからの連携」 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

現場
の関

- 誰が：現場管理者、東京湾首脳会議、首都圏サミット
- 場所：
- なにを：恒常的生物観察会
- 工夫：トップダウンの意識改革が必要、行政の積極性、理解からの行動

ト

ホトムアソシエは
進んでいる。行政の
トップダウン意識が
乏しい

行政は生き物の
重要性は理解は
している
が・・・

ヒント1：地域の特性（ローカル性）や日常性に着目して
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

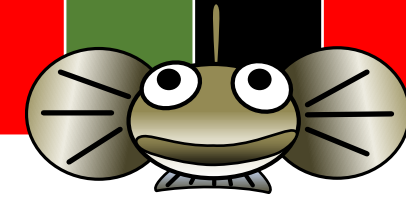
第3期行動計画に向けた「これからの連携」 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

- 誰が：横断的な組織、企業
- 場所：食べ物がおいしい所
- なにを：88ヶ所巡り、グルメ大会、大声コンテスト、フォトコンテスト
- 工夫：発見、エンタメ性、イベント性のあること、イベントの付加価値、バッジをつけるなどの一体感

グルメ
大会

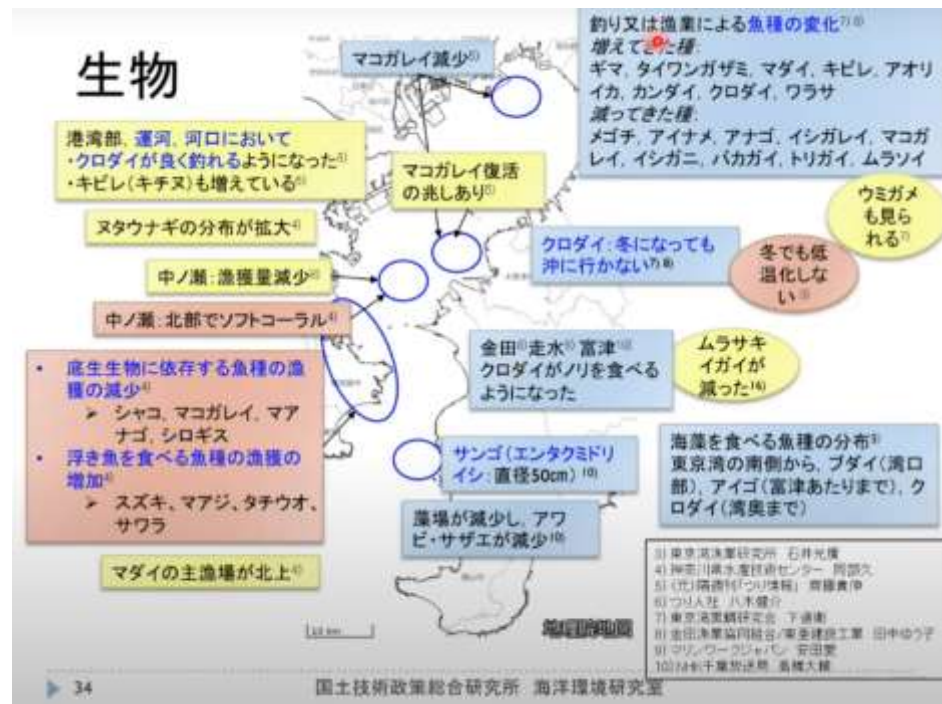
どで東京湾に関心を持ってもらうことが最初？

ヒント1：一カ所に着目して
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？



第5回江戸前勉強会2022(1/6)

- 東京湾の環境評価: 10年の変化(COD、透明度)、ヒステリシス、環境情報マップ
- 東京湾の環境変遷: 環境の支配要因(流れや地形)、希少生物の保全
- 意見交換: 水環境の悪化、活動の環のひろがり、新たな指標(浅場、底泥、アクセス)



絶滅危惧種の保護、保全は「東京湾の環境再生」の起点の一つとなり得る

生物多様性はグローバルな時流

千葉県環境価値向上: 湾全体に波及

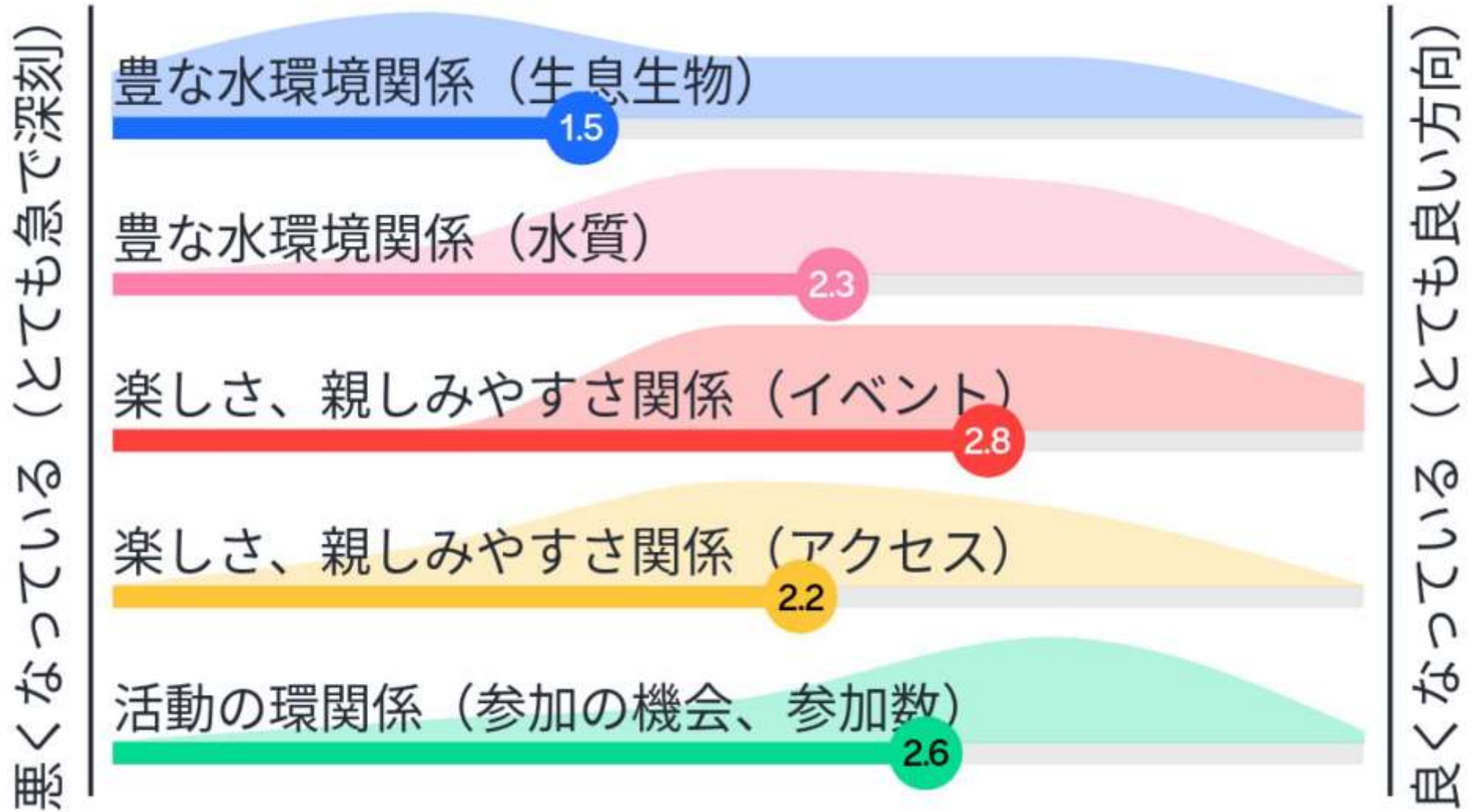
日本の生物多様性保全の発信としての『東京湾の環境再生』という位置付けが大切

都市圏の自然再生のモデル

国際社会の生物多様性の流れにおいて
世界に貢献する東京湾の生態系・環境再生を目指してはどうか

第5回 意見交換

- 東京湾の環境はここ10年でどのように変わっていますか？



第5回 意見交換

- 環境の評価についてご意見をどうぞ（評価の視点、活用など）

変化しているのは確かですが、良し悪しとなるとよくわかりません。

下水道関係の仕事をしています。最近の降雨の「集中化・激甚化」『気候変動による』により、合流式下水道からの汚濁負荷が東京湾に流入しているのではないかと気になっています。合流式下水道からの汚濁負荷が、紹介のあった底泥の汚濁として、東京湾の底に蓄積していったのではと愚考いたします。

浅場再生の定量的+経済的評価

市民にわかり易い指標、良いと思います。その指標で評価する際は、関連する専門的な指標項目でも確認しておくことが肝要だと思います。

アクセスしやすさは、海浜への立ち入りが可能な場所の駐車場台数の変化などもあるのではないのでしょうか。

気候変動や直接的な対策との関係を踏まえた対策を考えていけないか？と思います。

東京湾の環境変化の生態系に与える影響としては、東京湾全体の生物の多様性、現存量の長期変動（モニタリング）をしないことには流入負荷や環境変化に対する経年的な応答が評価できないと思います。

LIVEカメラでずっと写したりすればいいのにな？って思いました。

もっと多くの人々の生活活動の場として東京湾があると良い。

流入負荷が減っているのに、ここ数年の悪化傾向が心配です。なにか知らない変化があるのでしょうか？

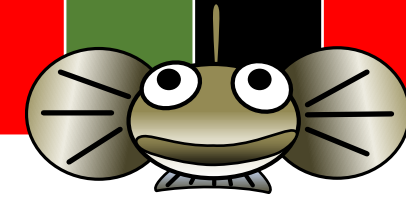
生物の多様性が必要と言う事から、実際に「現時点」にて東京湾にて生育している生物の「水族館」的なもの。ビオトープ的なものを作成し、市民に公開できるようにしていけたら良いな、と思いました。

第6回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「第1回～第5回勉強会の振り返りと
出されたアイデアの整理」
(古川恵太)
- **みんなで討議**
これからの東京湾でいたいこと
- 意見交換
- おわりに



第1回江戸前勉強会2022(11/11)

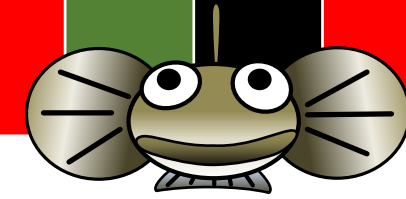
- 東京湾再生のための行動計画(第3期)の骨子:多様な主体の協力、官民連携
- 意見交換:連携の仕組み・工夫、まちづくりとの連携、評価の視点

第2回江戸前勉強会2022(11/25)

- 東京湾の環境モニタリング:多様なモニタリング、アクションへのつながり
- フラクトンから見た環境:過去の赤潮フラクトンの出現、昔への回帰?
- 意見交換:漁獲、魚・生物のモニタリング、沿岸・河口での調査、ごみ、海色、DB

第3回江戸前勉強会2022(12/9)

- 生き物生息場づくり:基本的な考え方と進め方(長期的、合意形成、変化の監視)
- 水産・漁業の視点:漁業生産の変化と環境を見る視点(貧酸素の意味)
- 生物モニタリングについて:ベントスとネクトンの生物種確認調査(イベント化)



第4回江戸前勉強会2022(12/23)

- 東京湾へのアクセス:窓施設、窓PTの活動、東京湾の日、ベアフラン
- グループワーク:生物調査、観察会、コンテスト、イベント、懇談会…

第5回江戸前勉強会2022(1/6)

- 東京湾の環境評価:10年の変化(COD、透明度)、ヒステリシス、環境情報マップ
- 東京湾の環境変遷:環境の支配要因(流れや地形)、希少生物の保全
- 意見交換:水環境の悪化、活動の環のひろがり、新たな指標(浅場、底泥、アクセス)



東京湾再生のための行動計画(第3期:2023-2032)に向けて

めざすべき東京湾の姿を描こう
ヘドロのない海を目指そう
海辺へのアクセスを確保しよう

生物種確認調査

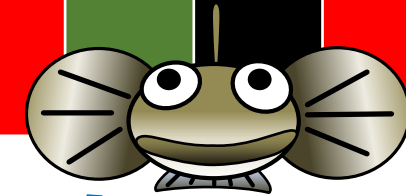
新たな課題に対する対話の場をつくろう
「海のイドバタ会議」を実施しよう
継続的に話していこう

- 懇談会
- 環境情報マップ
- 希少生物の保全
- 新たな指標(浅場、底泥、アクセス)

生物データの一元化・体系的な取得をしよう
生き物一斉調査・シンポの実施
(うなぎ調査)



- 新たな指標(浅場、底泥、アクセス)
 - 窓PTの活動
 - アクションへのつながり
 - 希少生物の保全
- 連携の仕組み・工夫
 - 懇談会
 - コンテスト
 - 東京湾の日
- 生物種確認調査
 - 漁獲、魚・生物のモニタリング
 - 環境情報マップ
 - 生物調査、観察会



東京湾再生のための行動計画(第3期:2023-2032)に向けて

第1課題

これからの10年に向けて

新たな指標(目標)

浅場、底泥、アクセス、窓PTの活動(保全再生、賢い利用、CEPA)、
アクション、希少生物の保全

新たな
指標/
目標

第2課題

これからの10年に向けて

連携の仕組み・工夫

懇談会の定期的開催、コンテストなどでの東京湾の日の盛り上げ

定常的
な対話
の場

江戸前
勉強会

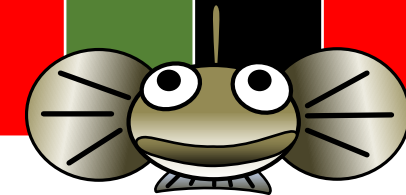
東京湾
シンポ
ジウム

東京湾
大感謝
祭

東京湾
の日イ
ベント

イベント的
な参画の場

回数・頻度



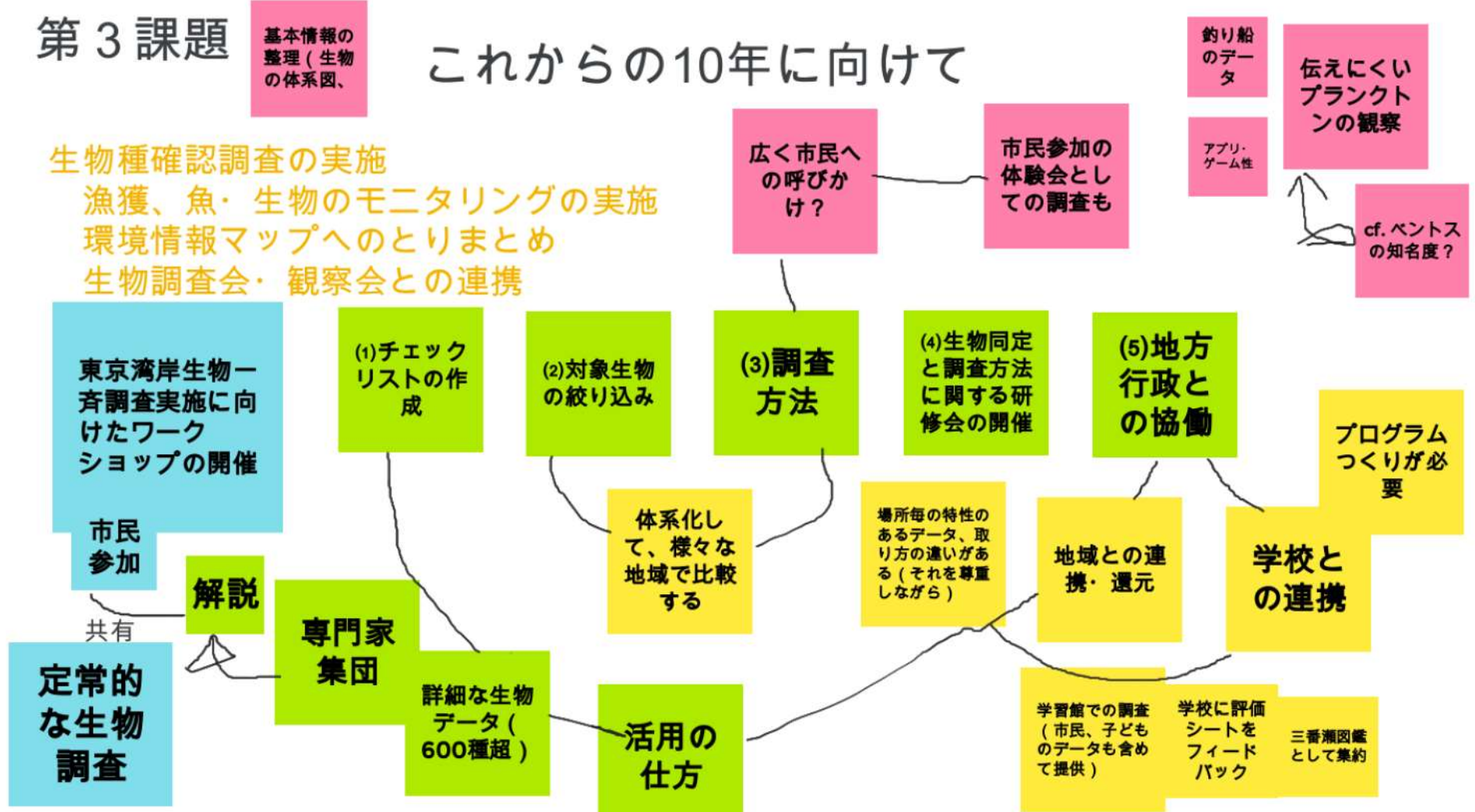
東京湾再生のための行動計画(第3期:2023-2032)に向けて

第3課題

基本情報の整理(生物の体系図、)

これからの10年に向けて

生物種確認調査の実施
漁獲、魚・生物のモニタリングの実施
環境情報マップへのとりまとめ
生物調査会・観察会との連携



釣り船のデータ

アプリ・ゲーム性

伝えにくいプランクトンの観察

cf. ベントスの知名度?

東京湾岸生物一斉調査実施に向けたワークショップの開催
市民参加

共有
解説
定常的な生物調査

(1)チェックリストの作成

(2)対象生物の絞り込み

(3)調査方法

(4)生物同定と調査方法に関する研修会の開催

(5)地方行政との協働

専門家集団
詳細な生物データ(600種超)

体系的で、様々な地域で比較する

活用仕方

場所毎の特性のあるデータ、取り方の違いがある(それを尊重しながら)

地域との連携・還元

学校との連携

プログラムづくりが必要

学習館での調査(市民、子どものデータも含めて提供)

学校に評価シートをフィードバック

三番瀬図鑑として集約

ご参加の皆さんで記念写真

第1回 (11/11)



第2回 (11/25)



第3回 (12/9)



第4回 (12/23)



第5回 (1/6)



第6回 (1/20)

